

常光寺々報

2017/3

春季彼岸会法要

三月十八日(土)

昼一時半～三時半

法話 当山住職

三月十九日(日)

昼一時半～四時

東京仏教学院講師

講師 前田 壽雄 先生

法座の案内

四月三日は、お休みです。

八日の花まつりにお参り下さい。

やすらぎ法座 四月24日(月)十時～

光輪法座 五月三日(水)昼一時半～

永代経法要 五月二十一日(日)

講師 武蔵野大学 田中教照先生

ご講師の前田先生には初めてのご縁をいただきます。先生は北海道の

専念寺の衆徒ですが、現在、本願寺

派総合研究所上級研究員であり、ま

た東京仏教学院講師もされています。

まだ若い先生ですが、腎機能が低

下していく病気を抱えておられ、塩

分やたんぱく質が制限されているた

め、食事が大変なようです。

それでも、仏法を伝える情熱に燃

えておられる先生です。どうぞ、楽

しみにお参りください。

❀ ❀ ❀ ❀

『自らを洲とし、自らをたよりとし、

他人をたよりとせず、法を洲とし、法

をよりどころとし、他の者をよりどこ

ろとしないでいる人々がいるならば、

彼らはわが修行僧として最高の境地に

あるであろう。』

中村元訳注『ブツダ最後の旅』

花まつり

四月八日(土) 朝十時半～

午後二時頃

四月八日はお釈迦さまのお誕生日です。

今年も、青年会の人たちがいろいろ

楽しい企画をして、皆さんをお待

ちしています。餅つきもありますよ。

みんなで食べに来てね！

お釈迦さまは争いを嫌われました。

殺生を嫌われました。何よりも平和

を求めて己の心を深く見つめられま

した。そんなお釈迦さまのご誕生を

お祝いしましょう。

❀ ❀ ❀ ❀

ご本山へのご懇志(最終)

五月十日に、ご本山の伝灯奉告法

要にお参りしますので、未納の方は

それまでに5000円の寄付懇志を

お願いします。

モノクロの世界

昨年は弟を亡くしたので、年賀状は失礼して寒中見舞いを出しました。すると、一枚の葉書が届きました。めずらしくA子からのものでした。

A子は、もう四十数年も前になりましたが、私が大学院生の頃、本願寺母子寮に勤務して子供たちの指導員をしていた時の子どもです。当時は多感な中学生でしたが、今はもうお孫さんもうりつばなお婆ちゃんのようにです。

そのA子からとてもすてきな葉書をもたらったのです。それを、寺報に載せるのは少しためらいましたが、でも、勇気を出して全文を紹介することにします。

《寒中お見舞い申し上げます。京は雪。モノクロの世界が広がっています。「あの子は一体誰だったのだろう」という文に、どこから来てくれたんだろ

う」とモノクロの思いが訪れました。

先生との出逢いもそうです。不思議なご縁に恵まれ、守られている様に思えます。時や場所を超えて身近に居て下さるのです。そんな幸せな私も誰かの暖かい存在になりたいものです。先生、どうぞお身体を大切に、そして、拝顔できます様に。感謝》

そして、何より驚いたのは彼女のところに広がるモノクロの世界です。寒中見舞状に、わたしは弟の死を知らせて、「二体、あの子は誰だったのだろうかと、ふと思うことがあります」と書きました。その一文が目に残った彼女には、外の雪景色と同じように心の中にモノクロの世界が広がったのでし

よう。「どこから来てくれたんだろ」と、呼応してくれたのです。私のこころはキュンとなりました。

モノクロの世界は「死んだらおしまい（終わり）」ではありません。人は死んだら、色のあるカラーの世界にはもういないわけですが、それでも、「どこへ行ったのだろうか」「今頃、どうしているだろうか」と、遠くへ思いを巡らせて問いかければ、色のつかないモノクロの世界は無限に広がってゆくでしょう。

「み仏は 現ならぬに 哀れなる人のおとせぬ 暁に ほのかに夢に見えたまふ」

平安の人々の心にもこんなモノクロの世界が広がっていました。現代人は変に賢くなつて、頭からモノクロの世界を否定し、幅も深さも薄い薄っぺらの人生を生きているような気がします。